

# ケア研通信

名寄市立大学は、コミュニティケアに関する知的基盤の創出と拡充のための研究や先駆的实践活動、地域社会の教育的活用と大学の人的・知的資源を活用したケア専門職の継続教育を推進しています。

## コミュニティケア教育研究センターとは

名寄市立大学の理念の一つである社会連携・社会貢献の基盤を整備・充実するとともに、教育—実践—研究の橋渡しにより本学の教育研究活動のさらなる充実を支える組織です。

## 地域交流

### 商店街あそびの広場

9月21日、第8回商店街あそびの広場を開催しました。この催しは、商店街の空き店舗を活用し、文化活動の活性化、子どもと大人の創ることの楽しさや豊かな未来を語り合う場の提供、大学生と地域の交流を図ることを目的に、実行委員



会（委員長・今野道裕社会保育学科教授）が主催するものです。

会場となった駅前商店街では、本学学生が中心となり、人形劇、絵本、紙芝居、段ボール迷路、ひまわりアート、積み木、牧草ロールお絵かき、バルーンアートなどの企画を用意しました。

快晴の下、参加した人たちは、スタンプラリーをしながら各コーナーであそびを体験していました。

ボランティアや地域交流イベントの情報提供はこちらへお願いします。  
まずはお問い合わせください！

TEL 01654-8-7661 FAX 01654-2-0070

Email [tiiki@nayoro.ac.jp](mailto:tiiki@nayoro.ac.jp)



## 研究

### 援農ボランティア研究事業

昨年に引き続き、今年度もコミュニティケア教育研究センター課題研究として、援農ボランティア研究事業が実施されました。名寄の特産品であるアスパラとスイートコーンはスーパーなど小売店側から需要が大きく、名寄の気候・風土も適していますが、収穫の際の手数が足りず、生産は縮小傾向にあります。一方、大学生はせっかく農業がさかんな名寄市に来て、あまり農業・農村と

関わる機会はなく、距離が遠くなっていました。

そこで、名寄市立大学・名寄市・JA道北なよろが協力して農家・学生向け説明会の開催や作業条件の統一、作業服の貸与などサポート体制を組み、アスパラとスイートコーンの収穫・調整等の作業を大学生に手伝ってもらって援農ボランティア事業を実施しています。両者からの評価は概ね好評で、のべ94名の学生がのべ27戸の農家さんの元で援農ボランティア活動に従事しました。



## 市民公開講座

### 北星信用金庫寄附講座

10月9日、北星信用金庫寄附講座を開催しました。名寄市立大学は北星信用金庫と産学連携協定を締結しており、その活動の一つとして本学学生と一般の方を対象とした講演会を開催しています。

今年度は、入院中の子ども達を訪問する「ホスピタル・クラウン」活動を全国で行っている、NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会理事長の大棟耕介さんを講師に迎え、「クラウンが語るケアの未来」と題して講演をしていただきました。

講座に参加した人たちは、真剣な姿勢で取り組む大棟さんの活動の話を聞き、あらためて「ケアとは何か」について考えていました。



名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター  
〒096-8641 北海道名寄市西4条北8丁目1  
TEL 01654-8-7661 FAX 01654-2-0070  
Email community@nayoro.ac.jp URL https://nayoro.ac.jp

ホームページは  
こちらから→

